

西表国立公園の公園区域及び公園計画の変更について

1. 変更の理由

西表国立公園は、琉球列島の最南端に位置する八重山諸島のうち、西表島及び石西礁湖と呼ばれる周辺海域並びにその中にある島々からなる。昭和 47 年 4 月 18 日に琉球政府により西表政府立公園として指定された後、沖縄の本土復帰に伴い、同年 5 月 15 日に国立公園に指定された。本公園の公園計画については、平成 15 年 3 月 31 日に全般的な見直し（再検討）が行われている。

西表島の東に位置し石西礁湖に隣接する石垣島は、亜熱帯地域の代表的な森林がまとまって見られ、カンムリワシ等の希少な野生生物が生息している他、沿岸には多様な海洋生物を育むサンゴ礁が発達する等、亜熱帯地域の優れた自然環境が残されている。これらの優れた自然環境の保全と適正な利用を推進するため、石垣島の一部を西表国立公園の公園区域に編入する公園区域及び公園計画の一部変更を行うものである。

2. 拡張区域（石垣島の一部）の概要

（1）景観の特性

ア. 地形・地質

島の中央部にある沖縄県最高峰の於茂登岳（526m）から北東部の平久保半島にかけては、標高 200～400m の山が連なる山地となっている。海岸線では陸地から概ね 500～1km の幅で、広いところでは 2km 程度に及ぶサンゴ礁（裾礁）が発達している。川平湾や玉取崎などで見られるように入江と岬が複雑に入り組んだ地形となっている。

地質は、県内で見られる地層で最も古いトムル層（主に緑色片岩からなる地層）や花崗岩の貫入岩、凝灰岩がみられ、変化に富んだ複雑な地質構造をしている。

イ. 植生

島の中央部から北東部にかけての山地には、自然性の高い亜熱帯性常緑広葉樹林がまとまって残されている。山頂部や北側斜面などの風衝地にはリュウキュウチクの優占するナタオレノキ・リュウキュウチク群集が発達している。平久保半島の東側斜面は放牧地として利用され、シバ草原の中にソテツが点在する独特の景観が見られる。

河口付近の汽水域には、ヤエヤマヒルギ等から成るマングローブ林が発達し、沿岸部の隆起サンゴ礁上には海浜植生が見られる。

貴重な植物群落も多く、平久保のヤエヤマシタン、米原のヤエヤマヤシ群落、荒川のカンヒザクラ自生地等がある。

ウ. 野生動物

ほ乳類は、リュウキュウイノシシやヤエヤマオオコウモリ等 8 種が生息している。

鳥類は、国内希少野生動植物種であり天然記念物にも指定されているカンムリワシ、ヨナクニカラスバト、アカヒゲ、キンバト等が生息している他、爬虫類ではセマルハコガメ、キシノウエトカゲ等が、昆虫類ではイシガキニイニイ等の希少な動物が生息している。

海域ではミドリイシ類を中心として、日本最多となる 360 種類以上の造礁サンゴ類が確認されている。また、スズメダイ科、キンチャクダイ科等の熱帯魚類をはじめ、多様な海洋生物が生息している。

エ． 自然現象

亜熱帯海洋性気候で、年間を通じて暖かく、黒潮の影響もあり気温変化は小さい。台風常襲地帯として知られ、東シナ海と太平洋の間の風を遮るものがない場所に位置することから、風速が大きくなる。太平洋高気圧に覆われる夏季は南風となり比較的穏やかな気候である。

オ． 人文景観等

平久保半島北東部の山地の斜面では、牛馬の放牧が行われており、シバ草原にソテツが点在する風景は、前面に広がるリーフと一帯となって独特の景観を構成している。

また、紺碧の川平湾の水面は、潮の干満や気象条件などにより、色彩が多様に変化する独特の景観を呈している。

(2) 利用の状況

石垣島は、西表島をはじめとする八重山諸島の玄関口になっており、来島者数は約 77 万人(平成 18 年)で近年増加傾向が続いている。

レンタカーで海岸沿いを巡る利用形態が多い。川平湾や白保海岸でのグラスボートは人気が高く、近年では、カヌーやスノーケリング、ダイビングも盛んとなっている。

3. 変更案の概要

(1) 公園区域の変更

次の石垣島の北部から中央部にかけての陸域と石垣港等の一部区域を除く石垣島周辺のサンゴ礁を公園区域とし、優れた風致景観の保護及び適正な利用を図る。(別紙 1 参照)

- ・ 平久保半島及び伊原間の山地部、山麓部並びに平久保半島先端周辺から東側にかけての海域
 - ・ 於茂登岳連山の亜熱帯性植物群落
 - ・ 米原海岸から川平湾にかけての海域及びこれらと一体となり優れた風致を有する陸域
 - ・ 屋良部半島の自然海岸及び周辺海域並びに屋良部岳
 - ・ 名蔵アンパルの干潟及びマングローブ林
 - ・ 白保海岸及び平久保半島東側から宮良湾にかけての海域
- (拡張面積 合計 7,022ha (陸域のみ))

(2) 保護規制計画の変更

石垣島の風致景観の保護を図るとともに地域における土地利用との調整を図るため、次のとおり保護規制計画を変更する。(別紙 1 参照)

ア． 特別保護地区

優れた景観の保護を厳正に図るため、次の区域を特別保護地区とする。

於茂登岳 (556ha)

於茂登岳の東側及び北東側に位置し、イタジイ、イスノキが優占する亜熱帯地域の極相林が発達している他、山地上部にはリュウキュウチク林がみられる。また八重山諸島固有種のアサヒナキマダラセセリ、ヤエヤマヤシ群落等の貴重な動植物の生息・生育地となっている。

イ. 第1種特別地域

特別地域のうちでは風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域である次の区域を第1種特別地域とする。

大地離^{だいちばなり} (3ha)

平久保崎の北約400mに位置する無人島。断崖に囲まれ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ等の海鳥の繁殖地となっている。

吹通川一帯 (42ha)

マングローブ林の代表的な分布域であり、特定植物群落に選定されている。流域には環境省レッドデータブック(2006)において準絶滅危惧種に選定されているミナミオニヌマエビ、コツノヌマエビ、ヤエヤマヤマガニが生息している。

川平小島^{くしほ} (36ha)

川平湾湾口に位置し小島をはじめ、真謝離^{まじやばなり}、サイ離などサンゴ礁の岩島から構成される区域であり、潮汐や気象条件により刻々と色彩が変化する内湾水面等の優れた眺望が得られる。

於茂登岳 (521ha)

於茂登岳から北西方向に連なる山系の北側斜面及び桴海^{ふかい}於茂登岳^{まもとだけ}の南側からなり、特別保護地区に隣接する区域。イタジイ、イスノキ林が優先する亜熱帯地域の極相林が発達し、山地上部には風衝地に成立するリュウキュウチク林が見られる。また、荒川の上流部には、国指定天然記念物のカンヒザクラ自生地がある。

名蔵アンパル (128ha)

石垣島西岸の名蔵湾に面した名蔵川河口に位置し、マングローブ林、干潟、海浜、海岸林からなる多様な自然環境が見られ、渡り鳥の中継地、森林性鳥類の生息地として国際的にも重要でありラムサール条約湿地にもなっている。

ウ. 第2種特別地域

良好な風致を維持する必要性が高い地域であって、特に農林漁業活動については努めて調整を図る事が必要な地域である次の区域を第2種特別地域とする。

平久保半島・野底岳 (587ha)

石垣島北東部に位置し山地部には特定植物群落が4箇所選定されている。また、平久保のヤエヤマシタンは国の天然記念物に指定されており、特徴的な植生が多く見られる。野底岳は山頂が円筒状の巨岩が屹立する特異な景観を呈する。山地、海岸線及び島の周囲に発達したリーフは、野底岳及び玉取崎等からの展望する場合の眺望対象としても重要である。

前嵩^{まへたけ} (25ha)

川平湾西側に位置し、前嵩の山頂付近にはケナガエサカキースダジイ群落やリュウキュウチク群落を始めとした自然植生がみられ、川平湾及び崎枝湾と一体となった景観を形成する。

米原海岸(48ha)

変化に富んだ自然海岸と多様な地形と自然度の高い植生が連続する。於茂登岳に端を發した山原川^{やんばねがわ}一帯は、山地から海岸にかけて良好な自然環境を保っている。

屋良部半島(99ha)

石垣島西端に位置し、北西部の海崖は常に強い潮風が当たり、ヤブラン、コウライシバ、カショウアブラススキ等を主体にした特徴的な風衝草が、南部海岸線はテリハボク等の海岸植生を主体とした良好な自然海岸が維持されている。

大マンゲー・小マンゲー(16ha)

ホウラ岳東側に位置する。約 5500 ~ 6500 万年前に海底の地層が隆起して形成され独特の景観を呈している。島の隆起・沈降の状況を知る上で地史的に重要である。

白水川流域(474ha)

於茂登岳の西側、ぶざま岳にいたる山地の南側に位置し名蔵川の水源である。一帯はケナガエサカキ - スダジイ群落が大半を占め良好な溪流景観を呈している。

名蔵アンパル(47ha)

石垣島西岸の名蔵湾に面した名蔵川河口に位置する。名蔵アンパル湿地の西側に南北 2 km にわたって形成された砂州地形は、自然環境保全基礎調査において「自然景観資源」に選定されている。

白保海岸(24ha)

石垣島南東岸に位置し、沿岸部にグンバイヒルガオ - クロイワザサ群落からなる海浜植生がみられる。

エ. 第 3 種特別地域

良好な風致の維持を図りつつ、通常の農林漁業活動については風致の維持に影響を及ぼす恐れが少ない地域である次の区域を第 3 種特別地域とする。

平久保半島(1,222ha)

石垣島北東部の半島に位置する。山地部と海岸線の間は牛馬の放牧地として利用され、シバ草原のなかにソテツが点在する独特の牧野景観を呈しており、野底岳及び玉取崎からの重要な眺望対象である。

野底岳周辺(1,507ha)

野底岳からホウラ岳にかけての山地であり、大半はケナガエサカキ - スダジイ群落、山麓部にはリュウキュウマツ、イヌマキをはじめとする植林地が点在する。野底岳の周辺は、風衝地にタブノキ、ヤブニッケイ等から構成される植生が成立し、ショウキランの群落等がある。

於茂登岳山麓(838ha)

於茂登岳の北西及び南東 ~ 南西の山麓に位置し、大半はケナガエサカキ - スダジイ群落からなるが、リュウキュウマツ、イヌマキをはじめとする植林地が点在する。於茂登岳及びその西側に連なる山地と一体的な風致を構成する。

川平湾周辺(344ha)

川平湾の沿岸及び隣接する前嵩からなり、ケナガエサカキ - スダジイ群落が優占するほか、

リュウキュウマツの植林地が広がり農地としての利用もされている。代表的な石灰岩地砂浜の海岸林「仲筋村ネバル御嶽の亜熱帯海岸林」が沖縄県指定天然記念物であり植生を特徴づけている。

屋良部半島(390ha)

石垣島西端に位置し、半島中央部は「屋良部岳の植生」が自然度の高い風衝性常緑広葉樹林として特定植物群落に選定されており、ガジュマル - クロヨナ群落が広がるほか、イヌマキ等の植林地が点在する。

オ. 海中公園地区

海中景観の保護を厳正に図るため次の区域を海中公園地区とする。

平久保(176.9ha)

平久保崎西側から平久保集落沖合の海域、裾礁が発達しており、礁原から礁斜面にかけては、枝状ミドリイシ類を主体とした高被度のサンゴ群集が形成されており海水の透明度も高い。魚類は、チョウチョウウオ科、スズメダイ科、ベラ科などのサンゴ礁魚類を主体とした構成である。陸域からの人為的影響が比較的少なく、外洋に面して潮通しも良いため、石垣島周囲のサンゴ礁の中でも良好なサンゴ群集が保たれている場所である

川平石崎(274.8ha)

川平半島の北東岸に位置し、高被度の非常に良好なサンゴ群集が礁池から礁縁にかけて確認されている。特に、枝状・卓状ミドリイシ、ユビエダハマサンゴ等が優占している。また、オニイトマキエイが頻繁に目撃される場所として有名なダイビングスポットが存在する他、周辺にはウミガメの産卵場が存在している。

米原(129.7ha)

礁池内の浅い場所にサンゴ群集が高い被度で広がっている。ミドリイシ類、シコロサンゴ類、ハマサンゴ類等の多種混成型のサンゴ礁生態系が見られ、魚種も豊富である。またアクセスの良さ等から市民にも親しまれており、スノーケル等による自然観察が手軽に楽しめるスポットとして利用上の価値が高い。

白保(311.6ha)

石垣島南東岸の宮良湾から東岸の通路川河口までの南北約 12km、最大幅約 1km に及び裾礁のうち、白保集落の北側に位置する海域である。礁池内ではアオサンゴやユビエダハマサンゴが優占する他、一部ではコモンサンゴ類が優勢である。特にこの地区に特徴的なアオサンゴの大群落は、北半球では最大規模のものとされている。近年はグラスボート等による観光利用も増加しており、観光資源としても重要な地区である。魚類は、チョウチョウウオ科、スズメダイ科、ベラ科などのサンゴ礁魚類を主体とした構成である。

カ. 普通地域(陸域: 115ha)

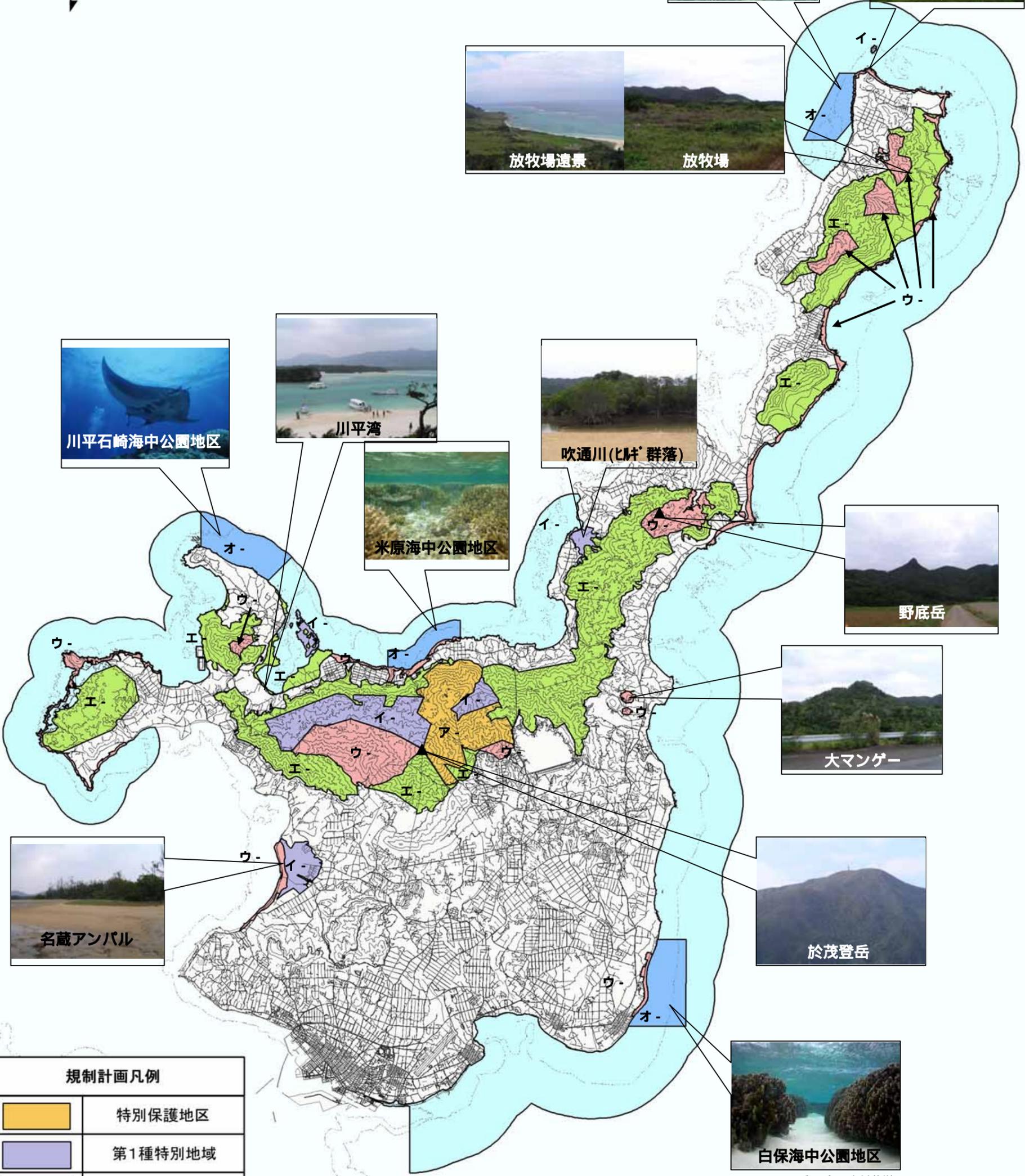
川平地区、屋良部半島の車道沿線、石垣島南端の真栄里海岸及び博物展示施設の整備が予定されている箇所及びサンゴ礁を含む海域(汀線から沖合に 1km 若しくは 2km)の風景と利用の適正な調整・管理を図る必要があるため普通地域とする。



公園区域及び規制計画変更案



規制計画凡例	
	特別保護地区
	第1種特別地域
	第2種特別地域
	第3種特別地域
	海中公園地区
	普通地域



(2) 利用施設計画の追加

公園利用の促進を図るために次の方針に基づき施設計画を追加する。

ア. 単独施設

園地 沖縄県石垣市（^{あかいし}明石）

平久保半島東部からの展望園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（玉取崎）

平久保半島及び白保へ続く石垣島東側海岸を望む展望園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（^{すくじ}底地）

底地浜での自然探勝のための園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（川平）

川平湾の展望利用及び周辺の自然探勝のための園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（米原）

米原海岸及びヤエヤマヤシ群落周辺の自然探勝のための園地として整備する。

野営場 沖縄県石垣市（米原）

米原海岸の自然環境を生かした探勝利用等のための野営場として整備する。

園地 沖縄県石垣市（^{うかんざき}御神崎）

御神崎からの展望園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（名蔵アンパル）

名蔵アンパルの干潟、マングローブ林等の自然探勝のための園地として整備する。

園地 沖縄県石垣市（白保）

白保海岸でも自然探勝のための園地として整備する。

イ. 道路（車道）

野底岳線 野底より野底岳山麓を経て伊野田へと至る車道として整備する。

起点：沖縄県石垣市（野底・国立公園境界）

終点：沖縄県石垣市（伊野田・国立公園境界）

屋良部半島線 屋良部半島周辺の海岸を探勝する車道として整備する。

起点：沖縄県石垣市（崎枝・国立公園境界）

終点：沖縄県石垣市（崎枝・国立公園境界）

ウ. 歩道（歩道）

野底岳線 野底岳に至る登山道として整備する。

起点：沖縄県石垣市（野底・国立公園境界）

終点：沖縄県石垣市（野底岳）

於茂登岳線 於茂登岳に至る登山道として整備する。

起点：沖縄県石垣市（平得・国立公園境界）

終点：沖縄県石垣市（於茂登岳）



於茂登岳線（歩道）



米原野営場



明石園地



川平園地



玉取崎園地からの眺望



明石園地



屋良部半島線（車道）



御神崎園地



名蔵アンパル園地



白保園地